

長津田の 見どころ 紹介

長津田の歴史

江戸時代になる頃から小田原と江戸との往来が盛んになり、表街道の他に足柄から厚木を経て江戸へ抜ける裏街道ができ、長津田宿をはじめいくつかの宿場ができました。

長津田宿は荏田から二里(約8キロ)、鶴間から一里(約4キロ)の距離にあり、荏田宿と鶴間宿の間にある宿場です。多くは旅人相手の商売を営み、五、六十軒の家が並び、旅籠屋(現在でいう旅館)が六、七軒もあり、他にめし屋、酒屋、甘酒屋、もち屋、せんべい屋などもありました。

その後、江戸時代に栄えた長津田も、やがては横浜線の開通やその他交通機関の発達につれて旅人相手の商売は成り立たなくなってきましたが、鉄道の駅ができたことにより養蚕業が営まれるなど新しい発展が芽生えてきました。

長津田を通る厚木街道(青山街道)にはいろいろな呼び名があり、今の東京青山から長津田を経て相模川を渡り足柄の矢倉沢に至る道であり、そのため矢倉沢往還とも呼び大山参りの人がこの道を通ったので、大山街道とも言われています。

この大山街道は裏街道ですが、人は表街道のわずらわしさを避け好んで通行したようであり、相模川でとれた鮎などを江戸へと運んでいたそうです。

長津田十景の紹介

①大林晩鐘 <だいらんぼんしょう>

長津田6丁目



大林寺は江戸時代に旗本岡野家の菩提寺として建立された。本堂は昭和30年に再建されている。晩鐘は夕靄に包まれた鐘の音を表現している。

大林寺に来て見逃してはならないものが二つあり、門に入って左側には緑色の大板碑(嘉元元年(1303年)があり、裏の墓地には領主岡野家の殿様墓があります。領主岡野家のお墓は横浜市の地域史跡にも登録されています。

その他見所: 関根範十郎のお墓・引田天功のお墓・兎来のお墓、五百羅漢
(平成17年8月より本堂及び各伽藍の建替を行い、平成18年秋完成予定です。)

②御野立落雁 <おのたちらくがん>

長津田町



大正10年の陸軍大演習で、当時の皇太子殿下(昭和天皇)が演習をご覧になった場所である。眼下に恩田川とその周辺の地を一望できる場所である。落雁は雁が空から舞い下りる様子。



このとき皇太子殿下が記念に松を一本植えられました。これを記念して約七メートルの記念塔「皇太子殿下御野立之跡」が立てられています。

③大石観桜 <おおいしかんおう>

長津田町



王子神社とともに長津田の鎮守である。境内に続く坂の途中には上宿常夜燈があり、宿の名残を感じさせる。市指定の名木とともに桜があり、春には美しく花開く。

大石神社は長津田宿の西方の小高い丘の上であり、南が正面で大山街道に接しています。ご神体は石神で、この大石には業平(なりひら)の伝説などいくつかの伝説があります。

④王子秋月 <おうじしゅうげつ>

長津田7丁目



大石神社とともにこの地の鎮守である王子神社は、境内に市の指定した名木もあり、良好な環境を保っているエリアである。空に輝く円月を想い起こさせる。

熊野信仰が盛んな頃には、全国各地に若一王子神社が祭られました。この長津田の王子神社もその一つです。

若一王子神社とは、熊野三山(本宮、新宮、那智)のうち新宮速玉大社にまつられている「熊野十二所権現」の一つです。

⑤高尾暮雪 <たかおぼせつ>

長津田町(辻)



高尾山は、1等三角点が存在することからも分かるように、周囲をよく見晴らせる非常に眺望のよい場所である。山頂には飯縄神社がある。暮雪は遠くに雪を頂いた山を見渡すイメージ。

緑区で一番高いところに位置し標高100.5mあり、ここを分水嶺として南東は緑区岩川へ、西は瀬谷区へとそれぞれ水源をなしていました。辻を眼下に見下ろし、その果てる所は大山や丹沢連山が横たわっています。

⑥天王鷲林 <てんのうおうりん>

長津田町(中村)



天王社とその周辺は谷戸を隔てる丘陵の尾根に当たり、未だに都市の喧騒から隔てられた良い景色が広がっている。鳥のさえずりが美しい。

小高い丘の上であり、正しい名は牛頭天皇宮(ござてんのうみや)と言い、京都祇園社(八坂神社)が本社です。祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)で疫病排除の神とされていました。

⑦下宿晴嵐 <しもじゆくせいらん>

長津田5丁目



宵闇のなか旅人を迎えてきた常夜燈はまさに長津田の宿場町の歴史を象徴する歴史的資産である。晴嵐はかつての宿場町の活気を表わす。

宿場の入口には常夜燈があり、灯火を灯して道を照らし、宿場の安全と暗い夜道を行く旅人のための道しるべでありました。下宿常夜燈とともに上宿常夜燈も横浜市地域史跡に登録されています。

⑧長坂夜雨 <ながさかやう>

長津田町



大山街道は、次第にその道筋を変え、長坂は現在の国道から取り残された。坂に通じる、長津田小学校脇から森村学園脇の旧道には、昔の矢倉沢往還の雰囲気を今に僅かなりとも伝える場所も一部残る。蓑笠をつけた旅人が雨の中を歩く様子を連想させる。

⑨長月飛螢 <ちょうげつひけい>

長津田みなみ台3丁目



大規模な造成計画のなかで意図的に残された谷戸地は、自然景観保全の中心的な役割が期待されている。古いものと新しいものが交錯する長津田にはふさわしい景として選定した。

(平成23年度末全面開園予定)
開園年度は現在の予定であり、変更する可能性があります。

⑩住撰夕照 <じゅうせんせきしょう>

長津田みなみ台5丁目



長月飛螢と同じ区画整理地内にある、古くから「住撰」と呼ばれる場所。公園からは長津田町の広い範囲を見渡すことができ、とても見晴らしが良い。夕景色がよい箇所である。

(平成17年度開園予定)
開園年度は現在の予定であり、変更する可能性があります。